

1. レポートは誰にでも書ける

- ・大学1年生が不安に思うことのひとつに「レポート」があります：
 - 大学の授業の多くは成績がレポートで判断されます。授業時間内で書くレポートは数百字程度ですが、学期末には何千字もあるレポートを書きます。さらに大規模な「卒業論文」も、いつかは書かねばなりません。
 - さらにいえば、あなたが将来仕事で書く文書も、状況報告やその分析・提案をまとめた報告書、つまりレポートです。そのため入社試験にレポートを課す企業や自治体もたくさんあります。

どこでもドアが開発されたら、人間の社会や文化、経済、法律などはどう変わるか、あなたの考えを述べてください。(三井物産の2016年度入社試験を一部改変)

阪神淡路大震災や東日本大震災によって判明した課題を述べ、それを県政にどのように生かしていくべきか論じなさい。(兵庫県 平成24年度 地方公務員上級)

児童の食事をめぐる変化について述べなさい。また食育の推進にどう取り組んでいくべきか、あなたの考えを述べなさい。(大阪府 平成24年度 行政・大卒程度)

- ・しかし仕事で書くということは、**誰でも書ける**ということも意味します。実際レポートには、自分が調べたこと、考えたことを、相手に確実に伝えるための**構成**があります。その構成に沿って書けば、レポートは完成します。特別な文章の才能は必要ありません。

2. レポートの構成

- ・レポートの構成について、具体的に説明します。
- ・資料1の(1)は、サマータイム制度についての考えを、エッセイなどに使われる「起承転結」の構成で書いたものです。関係のないワンちゃんの話がサマータイム制度に結び付くという面白さはあるものの、その主張を読んでもらうためには、最後まで読者をひきつけられる素材選び、文章力、構成力が必要です。
- ・そういう特殊能力は、大学も会社も求めています。(2)のような「**序論・本論・結論**」という構成で書いてくれたら、伝えたいことは十分に伝わります：

序論 (= 概要) レポートの目的や論点、論点に対する自分の主張などを簡潔に示す

本論 (= 詳細) 序論で概要だけ書いたことについて、より詳細な説明や考察を展開する

結論 (= 要約) 本論で述べたことを要約し、もう一度読者に示す

→伝えたいこと(サマータイム制度を導入すべき)を、「序論」では今から述べることの概要として、「本論」では詳しい説明や考察として、「結論」では序論・本論の要約として、計3回も書いています。くどいですが、これだけ書けば伝えたいことは確実に伝わります。

※今回のレポートは、論点(サマータイム制は導入すべきか)に対する自分の考え、つまり主張(導入すべきである)が簡単だったので主張まで序論に書いていますが、主張が複雑で簡潔にまとめられない場合は、序論には主張まで無理に入れず、テーマだけでいいです。(後の回でそのようなレポートを書きます)

※「起承転結」の「結」と勘違いしているのか、レポートの「結論」で急に考察を始める人がいます。レポートの「結論」は、それまでに述べてきたことの**要約**にすぎません。短いレポートでは結論は省略されることすらあります。考察を展開するのは「本論」です。

3. とりあえず書いてみよう、その1

- ・レポートの構成で文章を書いてみましょう。

ガンで余命2ヶ月の患者（65歳、女性）がいます。医師がそのことを告げると患者は泣き出しました。医師が「お話を続けてもよいでしょうか」と声をかけると、患者はうなずきました。その次に医師がかけるべき言葉として適当なのは、次の5つのうちどれでしょうか。

- ①「何かかなえたい希望はありますか」
- ②「来週おちついて話し合しましょう」
- ③「私がお役に立てることはないようです」
- ④「余命について話し合しましょう」
- ⑤「いまどんな気持ちですか」

第110回医師国家試験（2016年）のH-21問目を一部改変

- ・ワークシートに、解答とその理由を200～400字程度で書いてください。

- ・レポートの構成で書いてください：

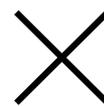
- 第1段落 「この問題の答えは■である。」（序論）
- 第2段落 「なぜなら……」（本論）
- 第3段落 「以上から、この問題の答えは■であると考えられる。」（結論）

- ・後で正答を発表します。

（意外な答えに思えますが、医師を目指す人には簡単な問題のようで、正答率は90%だそうです……）

資料1：エッセイとレポートの違い

・たとえば「サマータイム制度についてあなたの考えを述べなさい」という出題に対して……



(1) 起承転結の構成で書いたエッセイ →レポートには不向き

①	我が家の愛犬、ナツコは、年々夏が苦手になっていくようだ。私が小さい頃は夕方まで一緒に遊んだものだが、今では涼しい朝のうちにボール遊びを済ませると、午後は日陰にべたりと寝転んで動かない。暑さにへたばるナツコを、こちらもへたばりながらながめているうちにふと気づいた。変わったのはナツコではなく、夏の方ではないか。	【起】具体的な事例から書きはじめる。個人的エピソードや話題のニュースなど。
②	調べてみると、神戸の8月の平均気温はここ30年で2度も上昇している。神戸だけではない。いま日本各地で、都市部だけ気温が上昇する「ヒートアイランド現象」というものが生じているという。原因は、風の流れを止めてしまう高層ビル群や、炎天下の熱をためこむコンクリートなどにあるらしい。特に大きな原因がエアコンだ。暑いのでエアコンのパワーをあげると、室外機からの排熱でさらに気温が上昇する、だからさらにパワーをあげるという悪循環が、ヒートアイランド現象を加速しているのである。この悪循環を断ち切るにはどうすればよいか。	【承】その事例から、より大きな問題（社会問題や学問上の争点など）を引き出す。
③	ナツコをながめているうちに再び気づいた。ボール遊びは涼しい朝のうちに済ませてしまえばよい。つまり企業や官公庁の始業時間を、夏の間だけ2時間早めて7時からとすればよいのだ。朝の涼しさを利用してエアコンのパワーを抑えられれば、その後の気温上昇も抑えられるはずだ。午後になればさすがに気温も上がるだろうが、始業を2時間早めた分、午後3時にはもう終業である。熱気をためこんだ都市に残って無理に働く必要はない。	【転】その問題についての自分の考察を展開する。
④	このような夏季限定の就業時間の繰り上げは、「サマータイム制」といい、実際にドイツやフランス、アメリカなど欧米各国で導入されているという。ヒートアイランド現象を解消するために、日本でもぜひサマータイム制を導入すべきである。涼しい時間に働いて、暑い時間はだらける。これこそが、犬のナツコも導入済みの、かしこい夏の過ごし方なのである。	【結】自分の考察を、より一般的・客観的な言葉で言い換え、最終的な意見として打ち出す。

・おもしろエッセイやブログ記事でみかける文体。また小中高での「作文」もこの文体。

・読者の興味を引きそうな話題から始まり（起）、それを広げ（承・転）、最後に自分の主張を展開（結）。

→「具体的・個人的な事例から、抽象的・社会的な主張へ」あるいは「詳細から要点へ」という構成。

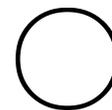
・高校で、小論文をこの構成で書くよう指導された人もいるかもしれないが……

→自分の主張を伝えるためには、**最後まで読者をひきつけられる素材選び、文章力、構成力が必要。**

とても難しい。だからプロのエッセイストというものがある。

・そんな特殊能力は大学も会社も求めている。

次ページに示すレポートの構成（序論・本論・結論）の書き方を知っていれば十分：



(2) 序論・本論・結論の構成で書いたレポート

①	<p>私は、<u>日本でもサマータイム制を導入すべきである</u>と考える。</p> <p>サマータイム制とは、朝の涼しい時間を有効利用するために、夏の間だけ、国家全体で標準時を数時間繰り上げる制度のことである。ドイツやフランス、アメリカなど欧米各国では、すでに導入が進んでいる。</p>	<p>【序論 = 概要】</p> <ul style="list-style-type: none">・今から述べること（レポートの目的、論点、主張など）を簡潔に書く。 <p>→この例では、自分の主張を最初に書いている（下線部）。</p>
②	<p>私がサマータイム制を導入すべきと考える理由は、<u>それがヒートアイランド現象への有効な対策となるから</u>である。</p> <p>ヒートアイランド現象とは、風の流れを止めてしまう高層ビル群や、炎天下の熱をためこむコンクリートなどが原因となって、都市の周辺部だけ気温が異常に上昇してしまう現象である。特に主要な原因と考えられているのがエアコンである。気温の高さに皆がパワーを上げると、室外機からの廃熱がさらに気温を上げるという悪循環を生み出してしまうのである（足永靖信「都心のヒートアイランド現象について」『建築研究所年報』2006年）。</p> <p>だがサマータイム制の導入によって、企業や官公庁の始業時間が朝の涼しい時間に早まれば、エアコンの初動パワーは抑えられ、その後の気温の上昇も抑えられる。つまりエアコンによる気温上昇の悪循環を断ち切ることができる。</p> <p>それでも午後になれば、エアコン以外の要因によって気温は徐々に上がっていくだろうが、その頃には多くの人々は郊外の自宅に帰宅をはじめ。始業時間を早めた分、終業時間も早まっているからだ。</p>	<p>【本論 = 詳細】</p> <ul style="list-style-type: none">・序論で概要だけ書いたことについて、より詳細な説明や考察を展開する。 <p>→この例では、自分の主張がどういう理由や根拠に基づくのかを述べている：</p> <p>→理由を、まず簡潔に一行で示す（下線部）。</p> <p>→続けてその理由を詳しく説明していく。（関連するデータや事例、専門家の意見、用語の解説など）</p>
③	<p>このように、サマータイム制はヒートアイランド現象への有効な対策となるため、私は日本でもそれを導入すべきであると考ええる。</p>	<p>【結論 = 要約】</p> <ul style="list-style-type: none">・本論で述べたことを要約し、もう一度読者に示す

- ・ 仕事で書く報告書や企画書、大学のレポート、ゼミ発表の原稿などはこの形で書く
- ・ 最初に概要を書き（序論）、後から詳しい説明や考察を展開する（本論）、最後に内容の要約を示す（結論）
→「要点から詳細へ」「主張から事例へ、データへ」というかたち（エッセイ型とは逆）
- ・ 伝えたいことを、序論では簡潔な概要として、本論では詳しい説明や考察として、結論では本論の要約として、3回も書く。くどいし堅苦しいが、この型なら**伝えたいことが確実に伝わる文書**が書ける。
→だから仕事で使われる →だから就職試験などで、この型の文書が書けるかチェックされる
→だから大学時代に身につけておく必要がある